

上 田 勉

「おもてなし」(滝川クリステル)、「福島原発(の汚染水)は完全にコントロールされている」(安倍首相)、国際オリンピック委員会総会でのこれらのメッセージによって、2020年オリンピックの東京招致が決定しました。しかし、福島第一原発の汚染水、コントロール出来ないで、大変な状況になっています。

### 凍らぬ「凍土壁」責任は？ 地下水に効果見られず…度重なる追加工事

「福島第一原発の凍土遮水壁(凍土壁)について、東京電力は7月の原子力規制委員会の検討会で、完全な凍結が困難との見解を示した。当初から成否が疑問視されていたが、地下水を遮る効果が見られず、専門家からは「破綻」との指摘がある。凍土壁にはこれまで約350億円が費やされ、国費負担。原資は税金だ。責任の所在が問われている。

「(凍土壁の)遮水能力が高いという主張はほとんど破綻している」

7月18日に開かれた原子力規制委の検討会で、メンバーの有識者から批判の声が上がった。汚染水対策として福島第一原発の1~4号機を囲むように地中を凍らせる凍土壁。事故で損傷した建屋に流れ込む地下水などが汚染水を増やし、貯蔵用タンクも増え続ける一方だったため、政府は2013年9月、地下水流入を防ぐために設置を決めた。

3月末から凍結が始まったが、いまも1%が凍らない。1%といっても総延長1.5km、高さ25~30mの凍土壁ゆえ、巨大な抜け穴になる。地下水は山側から流入し、海側に抜けるが、海側(東側)付近でくみ上げている1日あたりの推量は7月も約350t。これは事業開始当時とはほぼ変わっていない。

東電側はなお凍結していない主要な3カ所について追加工事を施すことで「しっかり閉められれば、流入量は下がる。破綻していない」と反論している。

だが、東電は先月19日の同会合で、こんな発言もしている。「100%凍らせる。100%水が通らないような状況を作ること考えているわけではない」。では、どんな状況を想定しているかという、くみ上げ推量の目標値で1日70t。現状はそれにも遠く及ばない。

### 福島原発 国費350億円 識者は「破綻」 「政府は東電を矢面に」

政府による東電支援は、現時点で原子力損害賠償・廃炉等支援機構を通じた無利子での貸与総額が約7兆6千億円(この費用は、原発の生産費用には含まれない)。これに含まれない、国が実質的に負担する除染費もある。それらに加えて、凍土壁の費用も国が直接、負担している。

貸与の返却の原資は電気料金で、国の負担分は税金と、ツケは国民に回る。

慶応大の金子勝教授(財政学)は「東電は事実上国有化されており、政府に逆らえない立場。凍土壁の決定も含め、政府は東電を矢面てに立たせ、あらゆる責任を押し付けている面がある」と指摘する。」(「東京新聞」2016年8月27日付け)

福島第一原発の汚染水問題、政府は国際オリンピック委員会に、きちんと報告すべき

です。(安倍首相はリオまで行って、マリオのコスプレに耽っている場合か。ちなみに、リオ五輪の閉会式にかかった費用は約 12 億円、一瞬にして消えた。)

**【福島第一原発（双葉町・楡葉町）】**



**【福島第一原発事故による 帰還困難区域（双葉町・楡葉町）】**

